

# 令和元年度全国学力学習状況調査結果と考察

## 1 学力の実態と課題

- 国語 平均正答率で見ると、全国平均を大きく上回った。  
「話すこと聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化：国語の特質」の4つの領域別では、どの領域でも全国平均を上回っている。「話すこと聞くこと」「伝統的な言語文化：国語の特質」については大きく上回っているが、「書くこと」「読むこと」についてはやや弱さが見られる。
- ・漢字、ことわざなど伝統的な言語文化に関する面は、基礎的な力がついてきている。しかし、漢字については全学年満遍なく力がついていない面もある。
  - ・書くことについては、平均的な力であり、日常的な指導の積み重ねから力をつけていきたい。
- 算数 平均正答率で見ると、全国平均を少し上回った。  
4つの領域別では「数と計算」、「図形」「数量関係」では全国平均を上回ったが、「量と測定」の領域では全国平均を少し下回った。
- ・図形問題、数と計算の問題では正答率が高い面があるが、量と測定、数量関係では正答率が低い傾向が見られる。
  - ・グラフの読み取りを説明するとか、図形の面積を説明するという傾向の問題が弱さが見られる。

## 2 学力向上のための取り組み

※ 学力向上のために基礎基本と授業改善を二つの輪として大切にする。

### ①基礎基本を大切にする。

ア 家庭学習を自主的な形でできるようにしていく・・・上田市版連絡帳”つむぐ”の利用で復習・予習を継続してできる児童が増えて、予習→授業→復習・予習のパターンで授業に臨むような子どもが増えた。

イ 全国学力調査、その他の学力調査の結果を分析し、それを生かして授業改善をしていく。

ウ はげみタイム・個別指導の時間を有効に活用できるようにする。学習ボランティアの利用を増やしていくことで、わかる授業を実践していく。

### ②普段の授業の中で、大切にする事。・・・授業改善を継続していく。

☆ 授業の中に、伝えあう場面、聴きあう場面、考えあう場をきちんと位置づける。

☆ 子ども中心の授業にする。・・・疑問形の学習問題にし、教師の出は最小限にする。

### ③宿題の改善・・・小中連携を生かしながら、宿題の出し方を改善していく。